

母親に向かつて、「死ねばいい」……とのの
しつたりするのは、ほとんどやつあたり。半
分は自分に向かつて言っている。

高校一年生

学校の空気になじめず不登校の一年を過
ごした男子は深夜、公園で仲間と「俺たち
ってダメだよな」と愚痴りあったという。
抑えきれない不安や焦燥を母親にぶつけた
のは「心理的距離が近い」からで、外に出
すことで辛うじて沈静化したのだと、長ら
く教育相談に取り組んだ木津秀美は記す。
荒井裕司編著『大丈夫！ 不登校。』から。